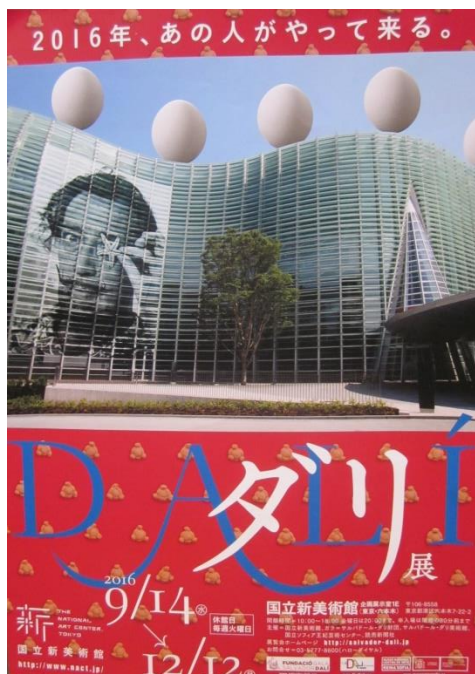


「ダリ展」 2016年、あの人がやってくる

京都市美術館 2016.07.01～09.04 国立新美術館（六本木）09.14～12.12



スペインは、フランス・オランダとともに世界的に有名な画家を排出した国として知られているが、代表的な画家はなんといっても「ピカソ」があげられるが、他に「ダリ」「ミロ」「ゴヤ」などが著名であることが知られている。

「サルバドール・ダリ」(1904～89)は、シュールレアリスム(超現実主義)のみならず最も有名な20世紀を代表する美術の巨匠として活躍した一人であるが、スキャンダラスな行動やコマーシャリズムは常に批判の的になっていた。

本邦で9年振りとなる大規模な個展は、油彩中心に水彩、ドローイング、オブジェ、ジェリー、書籍などで、創造性溢れる「ダリ」の世界を紹介しているが、「ダリ」の魅力の一つは見方によって図像の意味が変わる深さの謎である。

本展は、ダリ研究の中心である「ガラ＝サルバドール・ダリ財団」(スペイン)、「サルバドール・ダリ美術館」(アメリカ)、「国立ソフィア王妃芸術センター」(スペイン)の3機関との共同プロジェクトにより、国内の美術館所蔵作品を加えた「約150点」の作品で多面的な「ダリ」の世界を紹介するものである。

《子ども、女への壮大な記念碑》 1929年 油彩、コラージュ、キャンバス

巨匠が20代で描いた情景の中に人の顔や動物が見え隠れするきわめて謎めいた作品である。(写真右側の作品)